非核・いしかわ

2023年4月20日　月刊第297号

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は92か国、批准は68か国（4月15日現在）

1面　漫画『はだしのゲン』の平和教材からの削除問題を考える　神田順一
3面　核兵器廃絶いしかわフォーラム 開催案内 石川から発信する、わたしたちの〝次の一歩〟
4面　総理大臣として直面した福島原発事故の真実　菅　直人
5面　「被爆体験を受け継ぐ」　中野光子
6面　広島市は「国際平和文化都市」というけれど　河野　晃
7面　<独標>過去からの響きを未来へ　音楽と時代性2　山腰茂樹
編集室より
8面　戦争遺跡と平和の記念碑　佐藤公男
絵手紙コーナー　田伏久子

被爆地の広島で起きた
漫画『はだしのゲン』の平和教材からの削除問題を考える

神田　順一

中沢啓治さんからメッセージを託され、「はだしのゲンをひろめる会」（以下、ひろめる会　初代理事長　浅妻南海江）を設立したのは二〇一二年一二月、その後、金沢地方法務局に登記申請してNPO法人化したのは二〇一三年五月である。広島市の学校教材「平和ノート」に『はだしのゲン』が採用されたのは同年四月からであり、被爆地・広島市ならではの「平和教育プログラム」の内容に大変励まされた記憶がある。

ところが広島市教育委員会が、平和教育プログラムの改訂により、今年四月の学校教材から『はだしのゲン』を削除した問題に、多くの市民団体から厳しい批判の声があがっている。ひろめる会も三月二二日、『はだしのゲン』の継続採用を求める声明を広島市教委に送付した。

教科書問題を考える市民ネットワーク・ひろしま（以下、教科書ネットひろしま）は、オンライン署名「ヒロシマの心『はだしのゲン』を平和ノートから削除しないで」に取り組み、三月二二日、広島市教育委員会に五万五〇六五筆の署名を提出し、改訂「平和教育プログラム」に係る要請書を提出した。私もこの署名に賛同・支援しており、この要望書の主要点を紹介する。

24言語で翻訳・出版されている『はだしのゲン』

花鳥風月

漫画『はだしのゲン』は一九七三年に「週刊少年ジャンプ」で連載が開始され、今年で五〇周年となる。長く愛され、時には議論されながら読み継がれてきたことに感嘆する▼ゲンを取り巻く議論と言えば、二〇一三年の松江市教育委員会による閉架措置発覚を思い浮かべる読者も多いだろう。二〇一八年には、一部の場面を切り抜き、本来ゲンが言うはずもないセリフをコラージュさせて遊ぶ「ゲンコラ」がSNS上で流行し、大きく話題となったことも記憶に新しい。そして、今また広島市教育委員会による教材からの削除発表が話題となっている▼無論、それぞれ読者諸氏においても賛否はあろうが、これだけの時を経て、幾度も話題となるだけの訴求力、純粋に漫画としての知名度には目を見張るものがある。多様な意見があるが、もしかしたら教材とされること自体、漫画としてのゲンの魅力を矮小化させている一面もあるのではないか、とも考える。奥深い議論は絶えない▼六月には広島で五〇周年記念イベントも開催されるが、中沢啓治氏の自伝としての魅力はもちろん、改めて、純粋にゲンの持つ漫画としての魅力に迫る一年にしたい。（O）

【教科書ネットひろしまの要請書】

連載開始五〇年　優れた平和教材

『はだしのゲン』は、一九七三年に漫画雑誌に連載が始まった広島市出身の漫画家・中沢啓治による作者自身の被爆体験をもとにした作品である。作者の分身である主人公・中岡元(ゲン)が、戦争の理不尽さに苦しみ、原爆で家族を失いながらも、その時代の中をたくましく生き抜いていく姿が描かれている。主人公ゲンが泣き、笑い、おびえ、怒り、未来に胸を張る姿が、連載開始以来五〇年、多くの人に感動と思索をもたらしてきた作品である。また、同時に教育現場においては、子どもたちがゲンに自分自身を投影し、戦争や原爆被害、戦後の生活を追体験しやすく、被爆の実相や戦争について自分ごととして学ぶことができる優れた平和教材となってきた。特に、作品を教材として深めるために必要な情報、例えば作者・中沢啓治による解説や自伝、そして『はだしのゲン』作品論の研究書が多数あり、その資料を使い子どもたちに多面的で多角的な学習課題を工夫して提示できる優れた平和教材である。

「第五福竜丸」も削除された

私たち(教科書ネットひろしま)は、二月一六日の新聞記事によってこのことを知り、「平和ノートから『はだしのゲン』を削除しないで!」という運動を開始した。そして平和ノートから、『はだしのゲン』を削除した理由と経過の情報を開示して分析し、新旧の平和教育プログラムの検討を行った。その中で分かってきたことは、『はだしのゲン』だけではなく、「第五福竜丸」のことなど、広島にとって大切にしてきたはずの内容が次々と削除、消滅しているという事実であった。『はだしのゲン』削除撤回を求める運動の意味は、広島市の平和教育が目指そうとしている方向性を考える上で、最も象徴的な意味をもっている。

新・平和教育プログラムの問題点

●内容で大きく変わったのは小学校三年。中心的な教材として学んできた『はだしのゲン』が削除され、「ちづ子さんのお話」(『いわたくんちのおばあちゃん』より)に差し替えられた。

●中学校では、二年生の主たる教材であった「佐々木禎子」の記述や指導内容はかなり削減され、学習のねらいが「平和や核兵器に対する様々なものの見方・考え方への理解」に変更され、オバマ元大統領、ローマ教皇のメッセージと日本政府の核兵器に関する立場を学習するように変更された。

学習のねらいが「核兵器廃絶」から「核軍縮」に変更

●中学三年生の「核兵器をめぐる世界の現状」では、ねらいが「核兵器廃絶」から〝核軍縮〟となり、平和ノートからは「第五福竜丸事件」の説明や写真は削除された。「第五福竜丸事件」が今に続く核兵器廃絶をめざす市民の運動にとって、重要な意味をもつにも関わらず、削除された意味は何だろうか。

●「国際平和に向けた取り組み」では、サーロー節子さんの写真とプロフィール紹介はあるが、サーローさんは「日本政府こそ背を向けずに核兵器禁止条約を批准すべきだ」と知事や市長に働きかけを続け、「日本の市民に自国の政府を動かすために行動してほしい」と呼びかけているのに、その内容は紹介されていない。

●高等学校では、一年生の各時間のねらい、主たる教材、内容が大きく変わっている。端的に言えば、中沢啓治さんの話を中心的に学ぶ内容の「はだしのゲンが伝えたいこと」が、美甘章子さんの「八時一五分～ヒロシマで生きぬいて許す心」に変更された。

核兵器禁止条約に背を向ける日本政府の考えに誘導

●核兵器についての日本政府の立場を理解するという内容では、指導案の板書例で「唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向け国際社会をリードしていく」「安全保障の観点を考慮し、取り組みを粘り強く進めていく」とまとめられている。「安全保障の観点を考慮し」「現実的」「粘り強く」とは、アメリカの核の傘によって守られている日本の立場（核抑止論の立場）では核兵器に反対できず、核兵器禁止条約には参加しないという意味を指す。つまり、核抑止論にもとづいて核兵器禁止条約に背を向ける日本政府の考えを理解するように導いている。それが核兵器の廃絶をめざす広島市の平和教育の内容でいいのだろうか。

オンライン署名は継続中

教科書ネットひろしま事務局の岸直人さんは、「平和ノートの新旧指導書を分析していて、平和ノートの『はだしのゲン』教材の変更の問題だけではなく、平和教育プログラムが大きく変質しているのではないか、『はだしのゲン』教材は平和教育の根幹にあったからこそ削除されたのでは、との疑いを持つようになった」とコメントしています。

教科書ネットひろしまのオンライン署名：Change.org「ヒロシマの心『はだしのゲン』を平和ノートから削除しないで」は継続されています。署名への皆さんの賛同・支援を呼びかけます。

（NPO法人はだしのゲンをひろめる会事務局長）

核兵器廃絶いしかわフォーラム

石川から発信する、わたしたちの〝次の一歩〟

ゲスト　議員ウォッチ・リサーチャー　中村涼香さん
日　時　2023年5月27日（土）9：30～11：00
会　場　金沢歌劇座2階大集会室
主　催　非核の政府を求める石川の会
協　力　核戦争を防止する石川医師の会、ＮＰＯ法人はだしのゲンをひろめる会
日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名石川県連絡会

＊フォーラム終了後、非核の政府を求める石川の会総会を開きます。案内チラシを参照ください。

「議員ウォッチ」石川訪問を機会にフォーラムを開催

二〇〇〇年長崎生まれ、被爆三世の中村涼香さんをゲストに迎えて、五月二七日、核兵器廃絶いしかわフォーラムを開催します。

一月九日、オンラインで開かれた非核の政府を求める会新春シンポジウムでパネリストを務めた中村涼香さん（KNOW NUKES TOKYO共同代表）の講演要旨を本紙二月号に掲載しました。

議員ウォッチの企画書より

私たちのビジョン

「核兵器廃絶」をテーマに、議員と市民のあたらしいコミュニケーションの形をつくることです。

私たちの取り組む課題

二〇一七年、国連で「核兵器禁止条約」が成立しました。広島・長崎を経験した日本では、七割超の人たちがこの条約に「参加すべきだ」と考えていることが世論調査で明らかになっています。しかし日本政府は、この条約に不参加の姿勢を示したままです。国会での議論もほとんどなされていません。そこで私たちは、日本のすべての国会議員、都道府県知事、市区町村議会のこの問題に対する姿勢をスマホで明らかにするシステムを作りました。これを使って、日本の議員と市民の間で「核兵器廃絶」についてのあたらしいコミュニケーションを作り出していきます。

この課題に取り組む理由

世論の多数が支持しているのに政府が動かないというのは、民主主義がきちんと働いていないことを示しています。本来は、私たちの代表者である議員が国会で議論し、それにしたがって政府が動くということでなければなりません。しかし実際には、政府にすべてお任せになってしまっているところに問題があります。そもそも自分たちの代表者である議員たちがどんな人たちで、どんな政策を掲げているのかを知ることが大切ですし、知った上で私たちの声を議員に届けていくことが必要です。

核兵器禁止条約に日本政府が背を向けているのは「国の安全のためには核兵器による抑止力が必要だ」との理由からです。しかし、その「抑止力」とは何なのか。広島・長崎を経験した国として果たすべき役割は何か。また、平和を希求する国として日本はどうするべきか。そうしたことを、私たちはもっと積極的に議員たちに問いただし、議員たちに考え、議論し、そして政策に生かしてもらう必要があります。

【具体的な取り組み】

・衆参両院の全国会議員が「広島・長崎の被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名（ヒバクシャ国際署名）」に賛同しているかどうかについて調査し、スマホ用サイト「議員ウォッチ」上の情報を更新していく。

・全都道府県知事についても、同様の調査と更新を行う。

・市区町村議会で、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める意見書が採択された場合にはその情報を「議員ウォッチ」に更新していく。

・関連するイベントや討論会を実施し、核兵器廃絶に関する意識を喚起するとともに、国会や地方議会での議論を活発化させていく。

＊詳しくは次のＨＰを参照下さい。

ご案内

KNOW NUKES TOKYO
https://www.know-nukes-tokyo.com/

議員面会プロジェクト
https://giinwatch.jp/

講演要旨

シリーズ原発・いのち・みらい講演会

総理大臣として直面した福島原発事故の真実

衆議院議員　菅　直人

講演する菅直人さん

石川県保険医協会は、三月五日にホテル金沢にて、衆議院議員・菅直人氏をお招きし、「総理大臣として直面した福島原発事故の真実」を語っていただきました。参加者数は会場参加九二人、Ｚｏｏｍウェビナー四七人の計一三九人で、一七人は県外からの参加者でした。

講演の冒頭、ロシア・ウクライナの現況について触れられ、わが国の安全保障上の問題として、原発は通常兵器による攻撃だけでも福島原発事故以上の惨禍をもたらす可能性を指摘され、原発をなくす必要性を強調されました。

その後、配布資料に基づいての講演が行われ、福島原発事故原因のほとんどは事故発生前にあるとして、冷却用海水の揚水費用を浮かすため標高三五メートルの立地を一〇メートルにまで削ったとの指摘がありました。なるほど、福島原発が三五メートルの高台にあればこの災害は起こらなかった可能性もあり、目先の収支に拘った愚が悔やまれます。

また、原子力安全・保安院長が非専門家であったことも一因であったとの指摘があり、「なぜ福島第一原発にヘリで飛んだか」、『『海水注入』の真相』、「なぜ東電本店に乗り込んだか」との〝事故対応三つのなぜ〟について当時をめぐるお話もありました。加えて、多くの大使館が東京から避難したものの米国大使館が退避しなかったのは、第七艦隊の母港である横須賀から一旦退避すると戻りがたくなるとの、一般には知り得ない裏事情への言及もありました。

日米両政府が最悪の事故の引き金になると心配した四号機の使用済み核燃料については、震災前に抜き取る予定だった水が核燃料プールに流れ込むという「神のご加護」によって冷やすことができ、さらに遠隔操作可能な放水車（中国から貸与された通称「大キリン」）でプールに水を入れることができたおかげで、燃料はほぼ無事だったとのお話もありました。これらの奇跡が起きなければ、四号機使用済み燃料はメルトダウンを起こして、半径二五〇km・五千万人の退避が必要な「最悪のシナリオ」となっていたかと思うと、背筋が凍りつく思いです。

石川県保険医協会・総会記念講演として開催

岸田政権の原発回帰の背景には、ＧＸ会議がＣＯ２を出し不安定化する化石エネルギーへの過度の依存から脱するためと主導するが、それは明らかに誤りと断じられ、原子力に頼らない再生可能エネルギー等を主力にした原発ゼロへの菅私案を披露されました。その一つとして耕作と発電を両立する「営農型太陽光発電」を紹介され、「日本にも日本海側にはかなりの原発が並んでいます。すぐに、どこかの国が日本を攻めてくるとは言いませんが、万が一、通常兵器で日本にある原発が攻撃された場合には、原発事故と同じことが起きることは間違いありません」と、再度の警鐘を鳴らされました。

休憩後、質疑応答に入りましたが、二一の事前質問に加え、会場やＺＯＯＭの参加者から五〇の質問が寄せられ関心の高さが窺われました。これらに一問一答方式で答えていただくのは不可能でしたので、司会者から①ＳＰＥＥＤＩ（緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム）やＲＥＭＡＴ（緊急被ばく医療支援チーム）はご存知だったか、②緊急事態宣言はいつ解除になるか、③安倍元総理への名誉毀損裁判について、④東京電力の破綻処理をしなかった理由、⑤原子力ムラの実態、⑥復興税の防衛費流用の是非などの質問を取り上げ、回答いただきました。

東日本大震災一三年目を迎え、政府が原発回帰方針を示している今、原発について考える良い機会となったと思います。

（石川県保険医協会理事　打出喜義）

むぎわらぼうし例会
「被爆体験を受け継ぐ」
中野光子さんのお話

長崎の被爆体験を語る
中野光子さん

桜が満開の日、中野さんは語ってくださいました。長いお付き合いですが、ゆっくりとお話しをお聴きするのは初めてで、貴重な機会となりました。

被爆当時から幼い頃のこと

私は一九四四年六月一二日、当時父親の仕事の関係で住んでいた長崎で生まれました。空襲がひどくなり、父の実家のある金沢へ疎開することになりました。八月九日、切符を買いに来た父は長崎駅構内で被爆、少し遅れて駅に向かっていた母と母に負ぶわれていた私は路上で被爆しました。被爆者手帳には爆心地から二・五㎞と書かれています。母は額から、私は手から血を流していたということです。私の手の傷跡は今は目立ちません。兄、姉は大浦天主堂近くにあった自宅で被爆しました。

被爆当日は家族で長崎の街外れ稲佐山へ行って過ごし、その後三、四日かけて金沢へ戻り、親戚を頼っての暮らしが始まりました。原爆を受けたことは、小学校入学後、耳にしましたが、知りたくて両親に聞いても言葉を濁し暗い顔をするので、子ども心にも聞けないなと思いました。母はいつも薬を飲んでいて、姉に聞いたところ血が出やすい、止まりにくいことや腎臓が弱いということなどを説明されたことを覚えています。

結婚、出産、〝被爆者友の会〟との出会い

私自身も虚弱で、母は「子どもは無理かもしれないね」と言っていました。それとは別に独身の自由へのあこがれもあって、私は結婚しないと思っていたのですが、縁があって結婚し二人の子どもを産みました。両親はとても喜び親孝行ができたかなと思う一方、私は産後の肥立ちが悪く病院に長くいて、子どもの成長は楽しみだけど、いつまで見られるかなという思いが頭をよぎりました。一九七四年頃、西本多美子さんの紹介で被爆者手帳を取得してはどうかという話が出ました。母が拒否してその時は取得とはなりませんでしたが、その後家族みんな取得しました。もう少し早く手帳を取っておけば良かったと言った母は、一九七六年がんで亡くなりました。

手帳のことから西本多美子さん、被爆者運動に出会い、被爆者友の会に入りました。一〇フィート運動（注）の写真集を観て恐怖を感じ、「恐くて観られんよ」と言うと西本さんに「本当は音も熱も臭いも入って、こんなもんじゃないんだよ」と言われ、がん検診については「子どもが可愛かったらすぐ行きなさい」、育友会の仕事と重なって迷ったときは、「育友会の仕事は他の人でも出来るけど、被爆者友の会のことは被爆者しかできないんだよ」と叱咤激励されました。西本さんの存在はとても大きかったと思います。

私にできること　「この子たちの夏」実行委員会、「むぎわら」へ

三〇過ぎから四〇前後は割と元気で、パートも始めました。一九八五年、朗読劇「この子たちの夏」の実行委員会に参加して、チケットを広めることに励みました。病弱な身でも実行委員会に参加できるのがうれしく楽しかったです。とはいえ、被爆者の方々と知り合っても、被爆当時一歳だった私には語る体験がありません。私自身難しい病気で入院もし、今も数種類の薬を飲み病気とともに生きています。でも「この子たちの夏」の活動などを通し、それでも出来ることがあると知りました。疲れが出ることもありますが、そんな時は家族の支えや実行委員やむぎわらぼうしの仲間とのふれあいに助けられやってきました。

「この子たちの夏」をきっかけに、毎月集まって平和について考えようと、一九八六年「平和サークルむぎわらぼうし」が出来ました。事情でなかなか例会に来られないこともあったのですが、東しげのさんやむぎわらの皆さんに感謝しています。

今はウクライナのことが心配です。今の政治は逆行しています。被爆者として核廃絶を願うのは勿論です。なぜ戦争なんかするのでしょうか。

中野光子さんが 1980 年に自作した
絵本「カーネーション」の１頁

絵本「カーネーション」誕生ものがたり

きっかけは娘が五才の頃絵本の読み聞かせをしていて、絵が大好きな娘に

親子で楽しい絵本を作るのもいいなと思っていたことです。そんな折『ガラスのうさぎ』の作者、高木敏子さんの講演をお聴きする機会がありました。その会場で、中一の時社会科担当だったかつおきんや（勝尾金弥）先生が「皆さん、戦争を語り伝えましょう」と呼びかけられたのです。かつお先生の訴えにその気になって、楽しい絵本づくりのはずが戦争の本作りになったのでした。

わが子のために作った本であり、公開はしていなかったのですが、人づてに頼まれ一度だけ読んで紹介したことがあります。絵本に書いてたある被爆当時のことは、私の記憶・体験ではなく、語りたくなかった父母の体験や姉の見たことを姉から聞いたものです。

（注）戦争中にアメリカ軍が撮影したフィルムを一人一〇フィート（約三〇cm）分の寄付で買い戻そうという一九八〇年代の運動。「にんげんを返せ」などの映像作品や写真集になった。沖縄では一〇フィート分の寄付は難しいと、沖縄戦フィルムについて一フィート運動として取り組まれて、子どもたちに史実を伝える作品になっている。

（まとめ：永井悦子、末友雅子）

◎平和サークル「むぎわらぼうし」が四月一日、近江町いちば館四階研修室で開いた例会の報告要旨です。

非核石川の会リレーエッセー

広島市は「国際平和文化都市」というけれど

河野　晃

広島市教育委員会は、市立小学校の平和学習教材に引用掲載してきた『はだしのゲン』を二〇二三年度から削除し、別の被爆者体験談に差し替えることを決めたという。

『はだしのゲン』では、戦中戦後の広島市で「ゲン」が激動の時代を必死に生き抜くが、親しい人達が次々に亡くなった現実も描かれている。原爆の被害は、衝撃的かつ残酷で、子供でも読めるように、被爆の描写の配慮には苦労したと伝えられている。

作品では戦中戦後の人間のありかたにも様々に言及している。その一例が鮫島伝次郎の生き方である。戦中は町内会長として、「鬼畜米英」「一億火の玉」の旗を振って、庶民を監視し、ゲンの父の大吉や家族を陰湿にいじめ続け、ゲンの家族を貧困のどん底に突き落した。ところが、戦後になると一転して「日本の軍部のばかどもは、かの偉大なるマッカーサー元帥のいられるアメリカ合衆国とイギリスに戦争をふっかけたのです」「わたしは戦争に断固反対に立ち上がりました」と大演説をして市議会議員、県議会議員へと出世していった。

第五福竜丸の記述も排除されると伝えられる。原爆や第五福竜丸の悲惨な放射線被爆の原因は「米国由来の核物質」であることは歴史上の事実である。

岸田総理は安保三文書を携えて訪米し、バイデン米大統領に大歓迎された。広島サミットを開催するにあたり、反米的なものを排除しようという「過剰な忖度」が働いたのであろうか。

かつて広島には第五師団が設置され、日清戦争当時には、広島大本営が置かれた。江田島海軍兵学校、多数の軍人、軍属を戦地に送り出した宇品港、戦艦「大和」を建造した呉軍港などを擁する軍都として繁栄した歴史があるが、原爆投下により広島は壊滅的な被害を受けた。こうした戦前の歴史を反省し、戦後、「国際平和文化都市」を宣言したのではなかったか？

核兵器の非人道性、残酷さと平和の大切さを描いた『はだしのゲン』のはたす役割は大きい。

詩人会議かなざわ「独標」より

過去からの響きを未来へ 音楽と時代性2

山腰　茂樹

青春期にロシア民謡などを皆で歌った懐かしい思い出を持つ人々は多いと思う。関鑑子（一八九九～一九七三）が創設した「うたごえ運動」が全国に広がり、数多くの職場合唱団や歌声喫茶などで歌われた。美しく親しみやすい旋律で沢山の人々の心を繋ぎ、戦後の苦しい日々の生活に明るい生きがいを与えた。金沢でも清藤武二（シベリア抑留から帰還）や杉浦常男（元共産党金沢市議会議員）らを中心に歌のサークル「灯（ともしび）」が結成され、うたごえが燎原の火のように広まった。

このころ特に内灘闘争（一九五三～五七）が平和を求める人々の心を促え、全国的規模の闘いに発展した。清藤の「新しい歌声を響かせていこう」作曲や、「内灘かぞえうた」「花嫁さん花婿さん」など創作曲が歌われた。内灘闘争を機に生まれた、歌人芦田高子の歌集『うちなだ』は優れた作品群である。歌集中「黒潮の」に清藤が作曲した作品は絶品だと思う（今も「新歌人」のテーマ曲として大切に歌い継がれている）。

うたごえ運動では日本のクラシック音楽界の作曲家、芥川也寸志、林光、武満徹たちのうたも歌われた。

私が大学生時代に知った沢山の歌の中でも特に荒木栄（一九二四～六二）の作品に強烈な感動を受けた。三池炭坑闘争（一九五九～六〇）の中から、巨星のごとき労働者作曲家・詩人が育ち活躍したことに歴史の力を感じた。現代では荒木栄の歌曲はあまり聞かれないが、彼の多くの歌の数々は時代の変遷にも関わらず美しい輝きを放っている。私が今でも口ずさむ歌は「わが母のうた」、合唱組曲「地底のうた」「花をおくろう」「仲間のうた」「がんばろう」「心はいつも夜あけだ」「星よお前は」「沖縄を返せ」等で、精神のバネが強く即座に心に染み込む力強く美しい旋律から生きる勇気が与えられる。おそらく「がんばろう」を歌った人は多いに違いない。テレビで米軍基地の辺野古移設の暴挙を見るたびに「沖縄を返せ」を口ずさむ。

労働者作曲家　荒木栄

この中でも荒木栄が死の直前に作曲し、病床から井上頼豊（日本を代表する著名なチェリスト）に託された白鳥の歌「わが母のうた」は私の心にいつも響き、歌うと目が潤む。学生時代に仲間たちと肩を組んで歌った「地底のうた」も素晴らしい名曲だと思う。

私は、時代の精神をまっすぐに表現した優れた作曲家が奇跡のように生まれたことを日本音楽史に正しく刻むべきだと考えている。そして再び荒木栄の多くの名曲が現代にもっと歌われてほしいと切に願う。

矢川ピアノ工房の矢川光則さんを迎えて

被爆ピアノとうたう会

7月16日（日） 10：20～12：00

石川県庁19階展望ロビー

矢川光則さんのお話

被爆ピアノと一緒に歌おう

絵本の読み聞かせ「ミサコの被爆ピアノ」

「被爆ピアノとうたう会」実行委員会

＊被爆ピアノに関するパネル展示も計画されています

編集室より

◎統一地方選挙は、今号が読者に届く頃、新たな議席が全て確定しよう。昨年に引き続き、選挙の最中に襲撃事件が起きるという不穏な時代。この間、選挙が迫るにつれ、様々な**『報道の自由』**もまた、その立ち位置が問われてきた。

放送法の解釈変更に関する文書が総務省の行政文書だったと明らかになったことを受け、野党の「放送事業者の自主性、報道の自由を脅かす重大な問題だ。解釈変更の政府統一見解の白紙撤回、〝電波停止がありうる〟などとした当時の総務相の国会答弁の撤回を求めたい」との追及にも、「文書の正確性の立証責任は野党側にある」と開き直り、当初の「辞職する」との言明は、雲散霧消となってしまった。

一方メディアは、政党の噂話に何かと尾ひれはひれをつけたがる。たとえ全くの思い込みによる誤報を流されても、〝反論はするけれども、抗議はしない〟という姿勢を貫き、〝報道の自由〟〝表現の自由〟を徹頭徹尾守り抜く姿勢を貫く政党は、大人の対応であろう。

何れにせよ誰であれ、報道の自由への介入は、民主主義への道を閉ざす。愚かな行為を許さぬ国民の自覚が不可欠。（中）

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
4	29	土	13:30	少人数学級の日in石川・記念講演／佐久間亜紀さん	金沢市富樫3丁目・教育プラザ富樫
5	3	水・休日	13:30	平和憲法施行76年記念・県民集会／清水早子さん	金沢市三社町・石川県女性センター
	20	土	14:00	戦争をさせない石川の会講演会／猿田佐世さん	金沢市下本多町・金沢歌劇座別館3階
	27	土	9:30	核兵器廃絶いしかわフォーラム／中村涼香さん	金沢市下本多町・金沢歌劇座2階集会室
	27	土	11:00	非核の政府を求める石川の会総会	金沢市下本多町・金沢歌劇座2階集会室
	27	土	15:15	県社会保障推進協議会総会記念講演／雨宮処凛さん	金沢市鞍月1丁目・石川県地場産センター
	27	土	19:00	「はだしのゲン」連載開始50周年記念イベント・プレ企画	広島市中区土橋町・ハチドリ舎＋オンライン
6	10	土	11:00	原水爆禁止平和大行進・富山から引継ぎ式（～23日）	津幡町九折
	18	日	10:00	DVD上映会「声をあげる高校生たち」（試写会）、「再び沖縄が戦場へ（仮題）」（番外編）	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階
7	16	日	10:20	被爆ピアノとうたう会	金沢市鞍月1丁目・石川県庁19階
	29	土	10:00	反核・平和おりづる市民のつどい／ピースデイ	金沢市末広町・卯辰山・平和の子ら像前

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中です。年会費2，000円

戦争遺跡と平和の記念碑 ④

陸軍病院と海軍病院

佐藤公男

金沢陸軍病院

金沢陸軍病院は一八七三年金沢城跡に金沢衛戍病院として創設、一八九九年加賀藩家老奥村邸跡に移転する。県内唯一の陸軍病院としての役割を終え、一九四五年一二月厚生省に移管し国立金沢病院となった。一九五六年厚生省は国立病院に対し旧陸軍関係の衛生材料・医療機器の提出を申し出たがそのままに残された。二〇〇四年独立行政法人国立病院機構に移行し、現在の金沢医療センターが発足した。

金沢医療センター展示コーナー

山中海軍病院

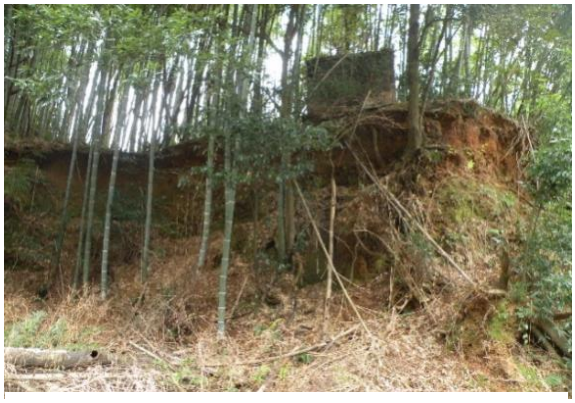
一九三八年二月山中町は、舞鶴要港部の要請で海軍病院誘致を決定、翌年一二月から警防団、在郷軍人、大聖寺中学生、青年団、婦人団体などの勤労奉仕で一九四一年一一月竣工式を挙行した。病院建設経過を知る唯一の山中海軍病院建設碑、国旗掲揚塔、永井柳太郎揮毫の扁額などが残されている。延べ三〇〇メートルの源氏山地下壕は本格的に使用されることなく敗戦となった。

（写真右）山中海軍病院建設碑

（写真上）源氏山地下壕内部の奉安殿

山代陸軍病院

陸軍省標石



敷地内裏山の火葬炉

山代陸軍病院は、一九一二年金沢衛戍病院山代分院として約八千坪の敷地に将校病棟、下士官兵卒病棟、浴室、運動場を備え創設。開院から一〇年間で四二三〇名を収容、戦況悪化で温泉街は傷病兵であふれ、敗戦後は国立山中病院の管理下となり、一九五九年三月の閉鎖まで病院業務を継続した。写真以外に病院の裏門、病棟門柱、井戸跡、倒壊した石垣が残されている。

（「平和工房 江沼の郷」主宰）

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合
絵手紙班　田伏 久子

県内各自治体総務担当課に今年も「平和事業に関する自治体アンケート」を実施します

質問事項

①原爆写真パネル展の開催計画
②子どもたちへの平和教育施策
③非核平和都市宣言の周知方法
④核兵器禁止条約について意見

＊アンケート集計結果は本紙及びＨＰで公表します。